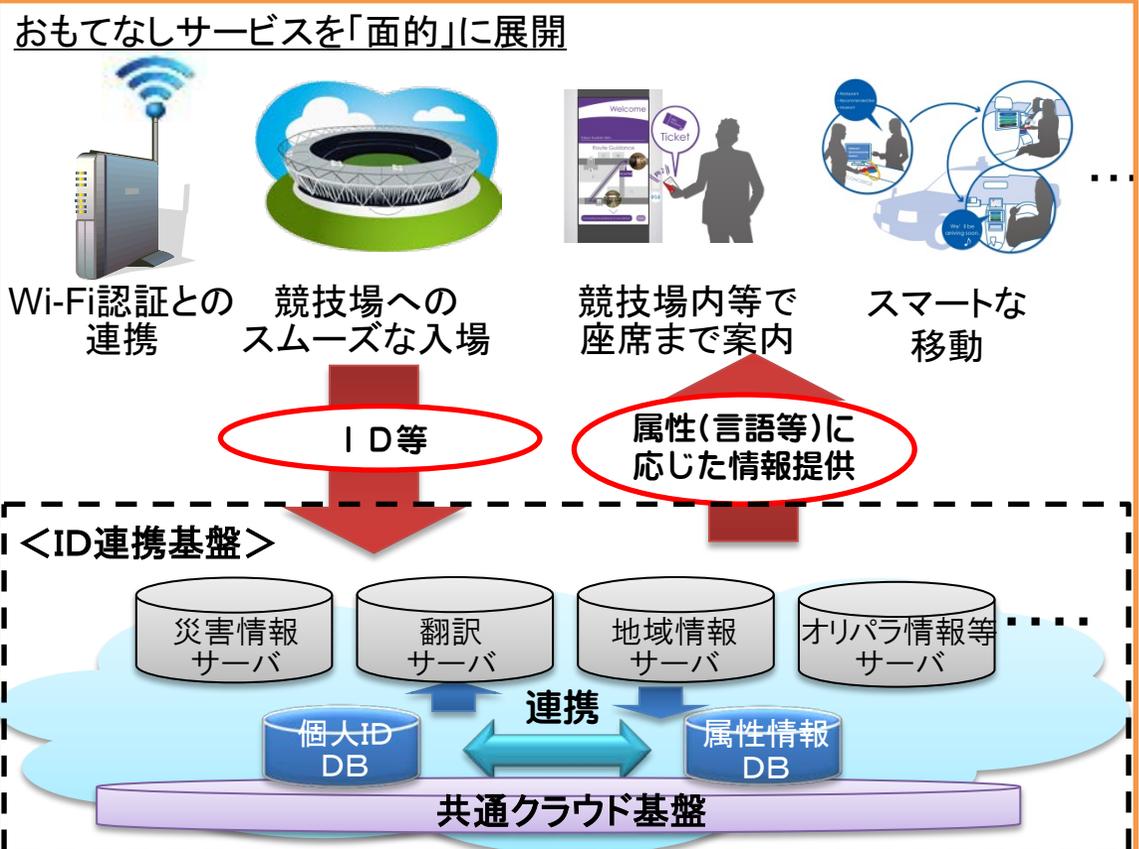


IoTおもてなしクラウドの社会実装について

平成28年11月10日

IoTおもてなしクラウド事業の目指す姿

- ICカード内のIDやパスポート情報等と任意のサービスのIDをひもづける機能を提供（IDや情報の登録等は空港やホテル等で実施）
- 平成28年度及び29年度において地域実証を行い、2020年までの社会実装を目指す。



28年度：先行実証①

3 地区
(千葉・幕張地区、渋谷地区、港区地区)

29年度：先行実証②

- ・ 競技場周辺
- ・ 観光地
- ・ 地方都市 等

継続的、持続的な展開を後押し

2020年までに社会実装

- 誰もが一人歩きできる環境の実現
- インバウンドの拡大
- 経済の活性化・持続的成長

ICカードが決済インフラとして普及

鉄道等の乗車 コンビニ決済

※電子マネー利用可能箇所：全国のべ約233万か所(H28.3末)

- IoTおもてなしクラウドとWi-Fi認証一元化システムとの連携に向けた関係者との調整
- オリンピック・パラリンピック会場へのチケットレス入場の実現へ向けた東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携
- デジタルサイネージ標準システム相互運用ガイドラインを適用した設備の導入に向けた自治体との連携
- IoTおもてなしクラウドを利用するサービスとクラウド運営者の関係の検討(契約の在り方等)
- サービス増加に向けたIoTおもてなしクラウドの機能拡充、周知・広報等
- 利用者増加へ向けた訪日外国人への周知・広報

等